

# 既存杭 適切撤去へ産学官協会 工法基準や資格制度整備

既存杭を適切に引き抜くための環境を整備するため、産学官でつくる「日本杭抜き協会」が発足した。

代表理事には、芝浦工業大学の稲積真哉工学部土木工学科准教授が就任。引き抜き杭の地中残置など既存杭に起因する地盤環境の問題解決に向け、建設技術者を対象に既存杭の撤去に関する倫理観を育て、工法の基準策定や講習・検定制度の構築を目指す。既存杭や引き抜き工を学術的に扱うのは国内で初めての試み。

現在の既存杭引き抜き工(撤去工)は、折れた杭の地中残置や引き抜き後の不

完全な注入など、施工中と施工後にさまざまな問題が生じている。特に解体・撤去後の跡地利用の際、産業廃棄物の残存が地盤環境を悪化させると問題視されている。

10月1日付で設立した同協会では、こうした現状を広く社会に認識してもらうため、まずは情報発信や勉強会を開催。引き抜き工の技術革新を進めるとともに、取り組みの必要性・重要性を学術的見地から明らかにする。こうした成果を公表し、他の学会や協会を含め積極的に啓発活動を展開する。引き抜き工法の基

準やガイドラインの策定や、国家資格となる講習・

検定制度を構築。適切に杭を引き抜く環境を整えていく。

既存杭を巡っては、日本建設業連合会(日建連、山内隆司会長)が建築工事の「既存杭利用の手引き」を改定した。既存杭の再利用を促す動きもある。

■■■■無断複製・転載禁止■■■■

## 日本杭抜き協会を設立 既存杭の残存問題解決へ

大工教授 稲積准  
芝浦工大

芝浦工業大学・工学部土木工学科の稲積真哉准教授は28日、産学官で構成する「一般社団法人日本杭抜き協会」(東京・目黒区、稲積真哉代表理事)を設立したことを明らかにした。既存杭、そして既存杭の引抜きを学術的に取り扱う法人の設置は、国内初だと言っている。構造物の解体撤去後に、地盤に埋設されたまま残る

既存杭に起因する諸問題の解決に貢献していく。高度経済成長長期に建設された建築物やトンネル、橋などの構造物の老朽化が今後、集中的に進む中、長寿命化対応が進む一方、その解体需要も高まることが予測される。

その際、現在の撤去工事で行っている既存杭引抜き工には、不完全な引抜き

きによる杭の地中残置などによって、施工中・施工後ともに、さまざまな地盤環境問題が顕在化。地中の産業廃棄物となつて、地盤環境の悪化をもたらす問題を引き起こし、土地売却引等では隠れた瑕疵として問題に発展するケースもある。

日本杭抜き協会は、こうした問題に着目し、引抜き工の技術革新に加え、講習や検定制度の構築も進めるとともに、この取り組みの重要性を学術的に明らかにして社会に発信していく。

# 杭抜き協会設立

## 学術的に広く情報発信

芝浦工業大学工学部土木工学科の稲積真哉准教授は、産学官でつくる「一般社団法人日本杭抜き協会」を設立した。これまで若干軽視される傾向にあった既存杭の存在と引き抜き工について、技術革新を目指すだけでなく、

### 芝浦工大の稲積准教授

なく、取り組みの必要性・重要性を学術的な見地から明らかにし、各方面に向けて公表すること。他の学会、協会も含む社会全体へ積極的に啓発する活動も合わせて実施していく。

建設技術者としての既存杭の撤去に関する倫理感を育み、その上で講習・検定制度の構築も含めたブランドデザインを創造する。既存杭、既存杭の引き抜きを学術的に取り扱う法人の設置は、国内初の試みとしている。建築物を建てる技法・工法は

数多く研究された法的な整備もされているが、既存杭を引き抜く方法については、これまでなかったという。しかし近年、高度経済成長期に建てられた建物を取り壊して同じ場所に新たに建てるケースが多くなっており、

解体跡地の利用に際し、この問題が今後ますます顕在化していくことが予想されている。

こうした状況で、稲積准教授らは業界の問題だけでなく、広く社会全体の問題として認識してもらったため、情報を発信したり、勉強会を開いていく。引き抜き工法の基準やガイドラインの策定にも努め、講習・検定制度を確立して国家資格とし、適切な「杭の引き抜き」の実施を可能とすることを目指す。

協会の代表理事は稲積准教授が務め、来年4月から本格的に活動する。